

発見

とよなか景観 スケッチブック 2025

第十三中学校区編

Hakken! TOYONAKA Keikan Sketch Book 2025



令和7年度(2025年度)

 豊中市

【スケッチ制作】
豊中市立第十三中学校
美術・イラスト部
【協力・ガイド】
NPO 法人とよなか・歴史と文化の会
豊中市都市計画推進部 都市計画課
〒561-8501
豊中市中桜塚 3-1-1 第二庁舎 4階
TEL: 06-6858-3143
令和8年(2026年)3月発行

発見
とよなか景観
スケッチブック
2025

はじめに

豊中市では、「豊中市都市景観形成マスタープラン※」において、まちの好感を楽しみ、共感へと広げる取組を実践していく人を「景観スタイリスト」と呼び、さまざまなプログラムを通じて育成の取組を進めています。

「発見!とよなか景観スケッチブック」では、市立中学校に通う生徒たちが、身近な景観を楽しむ「景観スタイリスト」として、まち歩きを通じて描いた校区内の景観スポットのスケッチを掲載しています。

みなさんも、実際に生徒たちが見て、描いた景観スポットを訪れてみませんか？

景観スタイリストとは

身近な景観を楽しんだり、なかまで景観まちづくりに取り組んだり、それぞれの取組み意欲や興味に応じて好感を共感へ広げるよう活躍する人のことです。

- 身近な景観を楽しむ人
- 好感に気づく人
- 好感をふやす人
- 好感をまもる人
- 景観スタイリストを増やす人
- 景観まちづくりに取り組む人

など



景観とは

山や川、池などの自然のながめだけでなく、人がつくった家やビル、道路や公園などの「まち」を構成する景色、風景のことです。

駅の近くのにぎやかなまちや、家が並んだ静かなまちなど、豊中市内でもさまざまなまちの景観があります。

景観スポットとは

さまざまなまちの景観の中でも、多くの人が“いいね!”と好感を感じる景色や場所のことです。

市内外の方に広くPRすることで、地域の景観への関心を誘い、景観に親しむ機会の提供や景観資源の保全につながります。

今回の“景観スタイリスト”は

豊中市立第十三中学校（柴原町2丁目14番1号）美術・イラスト部のみなさんと、令和7年（2025年）6月27日（金）に校区内のまち歩きを実施しました。

真夏日の中のまち歩きで暑さが心配でしたが、生徒のみなさんは元気いっぱいに参加してくださいました。案内人として呼び出したNPO法人とよなか・歴史と文化の会の方による文化財等をはじめ、市内の景観スポットに関する案内を受けながら、景観スタイリストとしてまちを歩き、それぞれが気になった景観スポットについて、スケッチ画を作成してもらいました。



本誌や過去のスケッチブックは市HPでもご覧いただけます。
 ☞とよなか発見!中学生景観スポットまち歩きの市HPはこちら

※ 豊中市都市景観形成マスタープラン

これからの豊中市の良好な都市景観形成に向けた考え方や進め方などを示す計画として、平成26年度に策定し、令和6年度に改定しています。

- 市ホームページからダウンロード可能です



市HPはこちら



[計画編]



[第2期推進編]

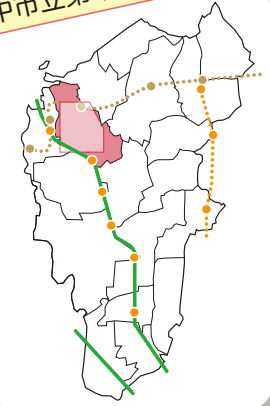
見つけてみよう MAP

身近な場所から「いいね！」
と感じる景観を見つけること
から始めましょう

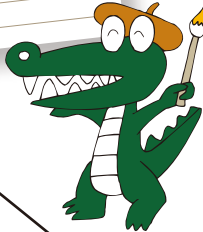
じっくり
探そうね！

第十三中学校区内には、
景観スポットが
たくさん
あるんだね！

豊中市第十三中学校区



第十三中学校区の
素敵な景観スポットを
紹介します！



スタート 第十三中学校

- next
- 1 梅林寺
- next
- 2 麻田藩陣屋門
- next
- 3 正安寺・常楽寺
- next
- 4 札場跡碑
- next
- 5 首無し地蔵・道標
- next
- 6 北谷の井戸
- next
- 7 大阪大学
豊中キャンパスの並木
- next
- 8 マチカネワニ化石出土地点
- next
- 9 豊中市第二水源地跡碑
- next
- 10 道標



作品一覧



1 梅林寺

河野 佐菜 趣のある梅林寺

たくさん組み合わせてある木の骨組みと左右対称的で大きな建物の臨場感にはおもわず息を飲んでしまいました。



朝比奈 真唯 門の裏側

釘とかが一切使われていなくて、昔の技術力を感じた。木だけでここまでしっかり残るものを作っていたことに感心した。



2 麻田藩陣屋門



田中 莉々愛 麻田藩陣屋門

同じ色でもたくさんの色を使ってかきました。



木製の扉

扉の形と周りの物の再現をしました。木の色を再現するのはかなり難しいと思いました。

3 正安寺・常楽寺



山代 佳穂 正安寺

見はらしがよかった。

作品一覧

5 首無し地蔵・道標

4 札場跡碑



山代 佳穂 住宅街にある札場跡

住宅街にポツンとあった。



首無し地蔵

いろいろな色があつてきれいな場所だと思いました。



井戸

思った色にならなくて写真と同じ色を作るのがむずかかった。かけをもう少し水をたしてうすくかいたらよかった。



6 北谷の井戸



森岡 空愛 首無し地蔵

肝心の地蔵がよく見えなかった。



三谷 仁実 こまイーヌ

人の行きたかった跡 (CD、湯のみ) があつた。人が集まるような通り道でもないのに不思議だと思った。



原田 唯衣 阪大そばの井戸

昔の雰囲気を感じた。



作品一覧

7 大阪大学豊中キャンパスの並木



奥野 裕也

木の道

緑が目立つように緑色の表し方や使い方を工夫した。



西岡 桜那

道の若葉色

同じ葉っぱでも、光の当たり方や場所によって色がちがって、緑の奥深さを感じられました。



8 マチカネワニの化石出土地点



マチカネ化石

化石や文字の形を忠実に再現しました。骨の形を再現するのが大変で草とかも工夫をして描きました。



上田 心優

まちかねワニ

私は転校してきてまちかねワニが本当にいるとは思ってなかったのでおどろいた。かわいいなと思った。

お気に入りの景観を見つけて、その場所について知ろう！

広めよう

作品一覧

9 豊中市第二水源地跡碑



楽しもう



10 道標



河野 佐菜

支えたしるし、 第二水源地跡

地域の人々を支えていたという水源地。
自然のありがたみを身近に感じました。



森岡 空愛

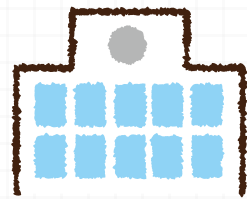
水の歴史

日当たりの良い公園だった。



豊中市第二水源地跡

提出期限ぎりぎりにやろうとしたが、木や石の
所にこけがありなかなか早くおわらなかった。



三谷 仁実 だれかが座ったところ

普通の通る道でも、光の当たり方、時間帯で、
すごくきれいに見えて、印象に残った。



とよなか景観 発見

スケッチブック 2025

第十三中学校区編



NPO 法人とよなか・歴史と文化の会

豊中市からの委託を受けて、「原田しるあと館（原田城跡・旧羽室邸）」の保存と活用に取り組んでおられます。さらに、市内の遺跡や文化財のガイドを通して、「わがまち豊中」の再発見と魅力の発信を行い、歴史と文化の側面からまちづくりに貢献しようとしているボランティア団体です。

【連絡先】
〒561-0801 豊中市曾根西町 4-4-15
TEL：06-6841-3725（土・日 12時～16時）



梅林寺 ▼刀根山元町5丁目

元禄5年(1692年)の桜井谷6ヶ村の「寺社吟味帳」によると、元亀3年(1572年)に玉室洞琳が建立したとあります。その後、文政13年(1830年)麻田藩家老斎藤氏の助力を得て、寛明を開山に、曹洞宗寺院として再建されました。墓地には、昭和の歌人野村泊月の墓・比翼句碑があります。



麻田藩陣屋門 ▼刀根山元町5丁目

市指定文化財です。明治維新の廢藩置県で、藩主・青木氏には東京移住が命じられ、阪急堂池駅西側にあった麻田藩陣屋の建物等は売り払われました。この門は、麻田藩陣屋から移築されたもので、江戸時代末期の建築と見られ、両脇に居間をもち両開きの扉の両側にくぐり口を設け、右前方に番番を張り出した、いわゆる“屋敷門”の形式をしています。



正安寺・常楽寺 ▼刀根山元町9丁目

常楽寺と同じ敷地内にある正安寺は、明応7年(1498年)頃、山口与左衛門が蓮如に帰依し、始まったといわれます。常楽寺は貞治2年(1363年)に存覚上人(親鸞の玄孫)が豊島庄(現池田市)に一宇を建立したのが始まりといわれます。現地へは、長祿3年(1459年)の移転とされています。一説では刀根山城跡ではないかともいわれています。



札場跡碑 ▼刀根山元町9丁目

江戸時代に「高札(制札)」が立てられていた場所です。高札は、時の政府が法令や禁令を墨書した揭示板で、往来の盛んな場所に立てられることから、この辺りは、当時は人通りも多い村の中心地だったと考えられます。札場跡というのは、「刀根山御坊境内に入るには、身分証明書の札が必要であり、その札改めの関所の跡であった。」との見方もあります。



とよなか百景
はここに
市HPは
こちら

⑥のついた景観スポットは、「とよなか百景」に選定されています。



首無し地藏・道標 ▼刀根山元町10丁目

「昔、追いはぎが旅人を殺したところをお地藏様に見られて、しゃべられたら困るので、地藏の首をもぎとり池に投げ込んだ…」との民話が伝えられている首なし地藏(現在は復元)や、もともと北刀根山村(現刀根山元町)の丘陵の最高所にあつて「右大坂」の文字が刻まれている道標等、約80尊の地藏が集められています。



北谷の井戸 ▼待兼山町1丁目

その昔、「この地を通りかかった弘法大師・空海は、刀根山の村人が飲み水に困っているのを知って、杖で地面に正方形を描いて「ここを掘れ。よい水が出るであろう」と言ったので、掘ってみたら清水が湧き出てきた」との伝説があります。それ以来、村人は飲み水に困らなくなったそうです。「弘法清水」とも言われてきました。



大阪大学 豊中キャンパスの並木 ⑥ ▼待兼山町1丁目

正門を入ると、直線通路に沿って3つの並木が目飛び込んできます。鮮やかな新緑、秋の紅葉、葉を落とした冬景色など、四季折々の潤いあふれる景観が楽しめます。



マチカネワニ化石出土地点 ▼待兼山町1丁目

昭和39年(1964年)大阪大学理学部学舎の工事現場で、約45万年前のワニの化石が発見された場所です。このワニの全身化石は全長約7.5mあり、日本で初めて全身骨格を確認できたもので、マチカネワニと命名され、令和7年(2025年)6月には国の天然記念物に指定されました。ワニが発見された地層は「大阪層群」と呼ばれる古い地層で、この地層の下部からは明石象や東洋象の化石が発見されています。



豊中市第二水源地跡碑 ▼刀根山6丁目

昭和11年(1936年)6月に通水が始まった旧麻田村水道の水源地です。当初は1本の深井戸で麻田村一帯の6600人に給水していました。同年10月に豊中町、麻田村、桜井谷村、熊野田村が合併したことに伴い、第二水源地として位置づけられました。配水施設としては昭和41年(1966年)に廃止されましたが、井戸からの取水は昭和52年(1977年)まで続きました。



道標 ▼刀根山元町7丁目

2つの道標があり、左側に立つ旧能勢街道の道標は、池田や能勢妙見宮への参詣道を案内するもので、寛政5年(1793年)、道行く人々に茶をふるまう茶所講の人が建てたとみられます。右側の道標は、天保7年(1836年)に建てられたもので、刀根山御坊への道標です。刀根山御坊は、③常楽寺が現在の地に移る前の名称で、「長柄(現大阪市北区)」の住人によって建てられたとみられ、近世後期における信者の広がり物語っています。